

知財コストの削減策(3):

特許調査の目的と戦略的特許調査の奨め

「特許調査」の目的

- 1). 知財の安全化を確認する
- 2). 事業の優位性を確保する
- 3). ムダな特許出願をやめる

目的を遂行する為の基本

1). 「戦略的な特許調査」をする

他社特許を侵害しない技術開発をするには、自分の技術と他者の技術を比較する。比較できる客観的な「ものさし」を準備する。

2). 自由に開発できる技術領域の確保

「実験研究」をやる前に「調査研究」をする。

関心テーマの技術情報(特許)のライブラリーを構築する。

3). 特許教育は「発明評価書」で行う

モヤシ特許を撲滅させて、ムダコストを削減する

守秘すべき技術・開示すべき技術の仕分け(棚卸)をする

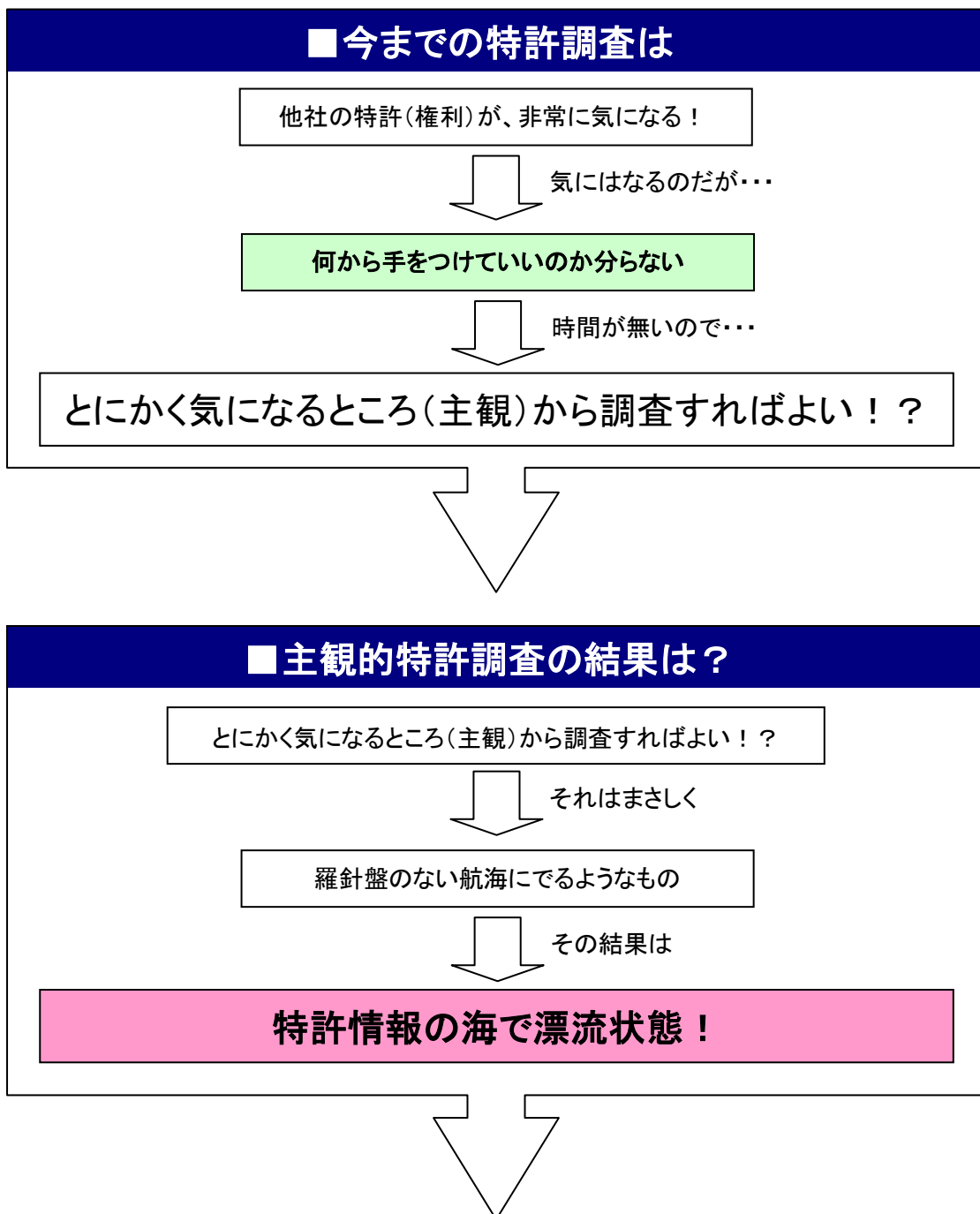
これまでの特許調査を見直す

「戦略的特許調査」の奨め、

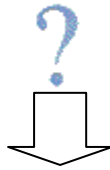
「知財の安全化」と「事業優位性の確保」を正鵠させ、ムダな特許出願を止める

- ・商品開発のスタート段階より、他社の「権利侵害調査」を実施して安全の確認をとる
- ・自社が自由に研究開発ができる技術領域を確保して事業の優位性を確保する

目的地の航海図を持つ



■効果的な特許調査は(本当に)あるのか？



戦略的特許調査の提言！

■戦略的特許調査とは

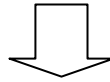
- 戦略的特許調査とは、ただ闇雲に特許調査を行うのではなく、スタート段階においてしっかりと目標(目的)設定された“羅針盤に沿った調査”をいう
- 自社の新商品技術情報をしっかりと分析し、“要素技術”を見極め、それを“調査観点”に的確に反映された調査をいう
- 特許調査員の主観ではなく、“客観的な物差し”による事実に基づいた調査をいう

■羅針盤にそった調査とは何か？

羅針盤にそった調査とは、調査をスタートする前に、特許調査に必要な情報を分析・整理し、正確な「特許航海図」を制作し、その航海図に従って調査を進めていくことをいう。

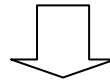
■ 特許調査に必要な情報とは何か？

特許調査とは、(本来)自分と他人との比較である



したがって、まずはじめに

自分(自社)の情報(の分析・整理)



つぎに

他人(他社)の情報(の分析・整理)

■ 特許調査に最も重要な情報とは

自分(自社)の最も重要な情報

新商品において、特定の機能を実現するための要素技術(手段)は何か？

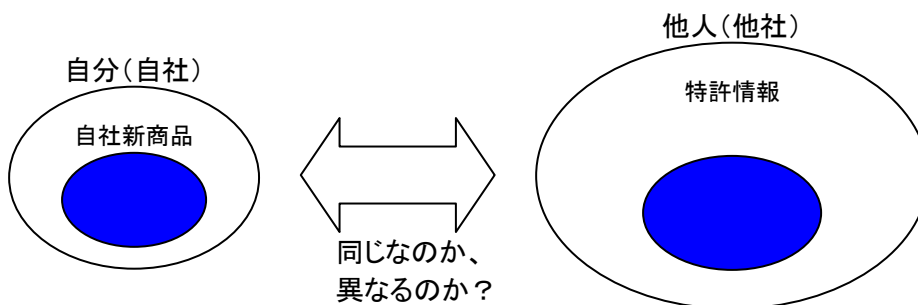


(客観的に)比較

他人(他社)の最も重要な情報

特許文献の【特許請求の範囲】に記載されている構成要件は何か？

■ 特許情報の比較概念



※比較して、その差をどんどん落とし込んでいけば発明が出来上がる。

■ 戦略的特許調査のポイント

- 特許調査において、まず手掛けなければならないことは、この自社の新商品において、特定の機能を実現する手段は何かという“要素技術”を浮かび上がらせることである。
- その“要素技術(実現手段)”の分析・整理がきちんと正確に行われているかどうかで、その後の特許調査の成否が決まるといっても過言ではない。

■ 戦略的特許調査の具体的な進め方

